

令和2年度 第1回地方独立行政法人徳島県鳴門病院評価委員会 議事録

日 時：令和2年7月20日（月）19：30～21：09

場 所：徳島グランヴィリオホテル 2階 蓬莱

出席者：（評価委員）稲井委員，香川委員，志摩委員，田中委員，土橋委員，吉田委員
（鳴門病院）森理事長，邊見院長，堀内副院長，阿川副院長，遠藤事務局長，喜来看護局長，
土居事務局次長，井上事務局次長，原田経営戦略課長，青木事務主任

議題(1) 委員長の選出について

・委員の互選により，香川委員が委員長に選出された。

議題(2) 令和元年度業務の実績に関する評価（自己評価）について

議題(3) 第2期中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する評価（自己評価）について

・事務局及び鳴門病院より，資料4から資料7に基づき説明

<質疑応答>

（委員長）

ちょっと細かい事を聞いてもよろしいですか。DMATは今，何チームあるのでしょうか。

（鳴門病院）

2チームです。

（委員長）

7ページにある「医療従事者の確保・養成」，この認定看護師が6名，6名，6名ですけど，毎年6名でやっている訳ですか。

（鳴門病院）

認定看護師は6名で，それ以後増やす事が出来ていないというのが現状なので。ここ数年，6名で。

（委員長）

6名は毎年いらっしゃる。

（鳴門病院）

はい，毎年おります。新たな領域を増やしたいのですが，同じ領域で増員が無い。

（委員長）

毎年6名と。

（鳴門病院）

はい。

（委員長）

認定看護師を受けた人の自分の評価はどうですか。

(鳴門病院)

毎回、毎年、年度初めには1年間の計画と、年度末には自分の活動の評価を提出はしてもらっているのですが、ただその活動にすべてが専従という状況ではないので、院内での活動であったりとか、院内での研修等への計画であったりというところは積極的にしています。

(委員長)

簡単に言うと、行った人は喜んでいる、良かったと言っていますか。

(鳴門病院)

やりがいは持ってくれていると思います。

(委員長)

他、質問はございますか。

(委員)

意味が良く分からなかったのですが、年度評価で今年は悪かったけれども、来年は頑張るから、良くなるだろうという風な説明が2、3あったような気がする。これ、来年頑張るからBからAになるんだ。

例えば、ページ20の「生活習慣病に対する医療の促進」、人間ドックの数は減ったけれども、来年頑張るから、BからAにしました。35ページの単価は上昇したけれども、材料費の方がもっと上回ったから、でも来年は頑張るからAにしますと。そういう風に聞こえたのですが。そういう事なのでしょうか。

(鳴門病院)

先程説明をさせて頂きました分につきましては、今年度終了時点の見込評価という事を出させて頂いておりますので、今年度の実績が出ていない段階での、見込の評価を立てるようになる訳でございますが、先程、生活習慣病のところに関しましても、色々な健診メニューというのを新しく作っているところもございまして、そういった取り組みを評価しているところでございます。

また先程の、収益等の改善等につきましても同様に様々な取り組みを継続的行っております事から、評価のほうをしているところでございます。

(委員)

言わんとした事は分かったのですが、ちょっと難しいのではないかという気がする。これで、来年は大丈夫だという論点は難しいのではないかと。言った事は分かったのですが、それでじゃあ来年の見込の評価はAですよ。そうでしょうか。今までも頑張ってきたんですね、多分。それだけど、来年もっと頑張ると。頑張るからAになりますと言われてもちょっと辛いですね。皆さんの評価だと思うのですが、私自身はそう思わなかったという事です。

(鳴門病院)

すみません。少しコメントをさせていただきます。委員が仰る通りですね。

今年度、今もう最終段階での見込という事での評価という事で、この4年間非常に頑張ってきたところでございまして、今年度につきましては、たちまち新型インフルエンザ、新型コロナウイルスとか、そういったところの要因もありまして、厳しい状況の中ではございますけれども、収益の獲得とか、そういったところも一生懸命、今励んでいるところでございまして。

まだ、残すところ9ヶ月程度あったと思いますので、精一杯頑張って頂きたいと考えているところでございます。

(委員長)

今、委員言われたように、頑張るというのはわかるのですが、結局、頑張ったあと9ヶ月がですね、何か上昇傾向にありますとかね、その証拠がないと、頑張るだけでは評価はなかなか難しい。その辺りをお聞きになっているのかと。

(鳴門病院)

例えば、生活習慣病のところでございますと、この6月からPET-CTを導入して、一般の診療にも、もちろん使っている訳なんですけれども、検診とかそう言ったところにも、積極的に今、活用しながら取り組んでいるという状況もございます。そういったところもありますので。

(委員)

年度評価の方で基本的なところをお伺いしたいのは、そもそも年度計画ってどうやって決めているのか教えて欲しいです。いつ頃どういう手続きで。

(鳴門病院)

年度計画ですね。年度に入る前の、概ね2月、3月辺りのところで計画を立てて、策定をしているという状況です。

(鳴門病院)

年度計画につきましては、だいたい11月位から、購入する医療機器も含めた、各診療科からのヒアリングを各医師から行いまして、どれぐらいの診療単価で来年度、目標の収益を上げていくのかというのをだいたい設定して、それを2月で概略の数字を出して、理事会でまず議論をして頂き、さらに詳細な数字を3月の理事会でさらに単価を出していきまして、収支の計画を立てる。そういった作業をだいたい4、5ヶ月位かけて行っているところでございます。

(委員)

ありがとうございます。なぜそういう話になったのかというと、多分、今の話からすると例えば今日時点で言えば、令和2年度の年度計画はあると思うんですね。

一方、この評価委員会で、我々委員が目にするのは旧年度の年度計画。すなわち、1年3ヶ月か4ヶ月前の年度計画が初めて。

例えば、平成31年度、令和元年の年度計画というのはこの委員会で初めて私は見たと思います。事前に資料を送付して頂いているので、今から2週間前とか10日前とか見るのですが、前年度、平成30年度の年度計画と、平成31年度とか令和元年度の年度計画とを比較すると、結構内容が変わっているんですね。

例えば、「特徴を発揮した医療の推進」のところで、前年度までのこの委員会で議論していたのは、ほとんど手の外科手術で脊椎、脊髄手術は全然情報として無かった話なのです。だから、例えば今日時点で言えば、令和2年度の年度計画というのがあって、多分その計画に基づいて事業をされていると思いますが、その進行中の計画を知らずに、年度が終わって評価と同時に計画を出されるものだから、ちょっと私あれっと思ったところで。もし可能なのであれば、今進行中の計画なんかもお出し頂けたらなど。

そうすると今、頑張りますだけではなくてというところも、今、令和2年度の計画はどうなっているのかというのが、場合によっては中期計画の評価にある程度こちらも判断として加味出来るのかなとい

う気がしたのです。

(鳴門病院)

委員の仰る通りでございまして、具体的に先程の脊椎、脊髄の手術件数と言いますのは、平成30年度、平成30年11月からスタートした非常に県内でも権威のある先生にお越し頂いてスタートしたところとございまして、実質的に1年間を通してという事になりますと、令和元年が1年間の評価のすべてというところとございまして、こちらのほう、1年間の分で改めて評価したところ、非常に四国でも有数、No.1の手術件数を達成しているところでさせて頂いております。

今年度ですね、脊髄、脊椎医師手術の件数というのは、今ちょうどコロナウィルスの関係でして、件数自体は伸び悩んでいるところですが、鳴門病院の主力として、取り組んでいるところとございまして、特に今年はオーアームという先端的な機械等も導入しながら取り組んでいこうと。という事でより安全にまた、より効率的に手術を行っていくような、取り組みという事も行っているところとございまして。

(事務局)

例年ですと確かに、前年度の病院実績の検証と言ったところだったのですけれども、今年度は中期目標の最終年度という事で、当該目標期間中の見込評価についても内容としてありましたので、確かに今年度の年度計画についても、資料として提出すべきだったと思っていますので、また次回以降、是非検討させて頂きたいと思います。

(委員)

次回以降というか、多分、評価に我々使うんじゃないですか。

(事務局)

追加でまた、配布をさせて頂きます。

(委員長)

よろしいですか、他ございますか。

この資料6の8ページ、人事評価システム、人事評価制度に関しては随分前から難しいと。ここの基幹職員というのは、例えば看護職であれば師長とか、これ何名になるんですか、トータルで。だいたいいいです。師長なんかでも、出てる人はいらっしゃると思いますか。

(鳴門病院)

看護職員は、看護師長以上は全員が基幹職員という事になっています。

(委員長)

100人弱ですか。

(鳴門病院)

看護師全体で言いますと300名。嘱託職員も含めて、300名余りおります。

(委員長)

基幹職員に実施したと書いてありますよね。だから全員じゃなくて、師長とか役職がついている方もあると思うとよろしいですか。医療従事職員とか全部含めてほしい何名ですか。今後はこれ、ずっと広げていくのですか。何かわかったら教えて下さい。

11ページの、今回この質問で終わりなのですが、リニアックが、平成30年938人から1,314人とはすごくあれなんですけど、それだけ紹介だとか、新しい方が来た訳ですね。すごいですよね。

(鳴門病院)

こちらはですね。令和元年度につきましては、7月以降の医療件数になりますが、平成30年度は逆に途中で終わっていると言いますか、導入の為の工事ですね。そうした意味で減っているという状況でございます。

(委員長)

ちなみに、データを載ってないかもわかりませんが、平成29年度はどれくらい。

(鳴門病院)

平成29年度は1,521件になります。

(委員長)

はい。ありがとうございました。他にご質問ありますか。

(委員)

私からもやはり、見込評価をする時に、今年度、色々な医療機関さんに聞かせて頂くと、コロナの関係で外来だとか、入院患者数が減ったりして、収益等も落ち込んでいるという事も近年ございますので、令和2年度含めての見込になるという事なら、その辺りの現状も教えて頂ければ評価もしやすいかなと思いますので、お願いします。

また、実績報告書の中で人材、医療従事者の確保、養成、7ページなんですけれども、認定看護師数というのは合致しているという事ですが、今年度なのですが、令和2年度に関しましては、認定看護管理者の研修、ファースト、その上のセカンドについても、看護協会としましても、本当に残念なんですけれども、養成研修を今年度は中止しているというところで、結構、養成が中止になっているところもあるんです。

そんなところもありますので、令和2年度は別として、これからも計画的に認定看護師の養成ですとか、色んな専門職に対する計画的な人材確保のほうもお願いしたいと思います。

(鳴門病院)

計画的に育てたい領域も複数ありますので、出来るだけ計画的に達せれるように努力していきたいと思っています。ありがとうございます。

(委員長)

他にございますか。

(委員)

ちょっと細かい点になるのですが、お聞きしたいのが費用の抑制の点についてなのですが、36ページのところで費用の抑制について、県立病院との共同交渉の促進や在庫管理の適正化により、費用の抑制に努めることと目標の中で書かれていて、業務実績の中で購入に関する事については、書かれているとは思いますが、在庫管理について、どのように具体的に適正化を図っているのかについて、お教え頂きたいと思います。

(鳴門病院)

在庫管理につきましては、年2回、上半期と下半期でそれぞれ担当科のほうで在庫の棚卸しを行って、そこで管理をしているところでございます。まだ、情報システムとかそういったところでの管理というのが出来ていない状況ではございますので、現在そういったところの、SPDという事になるのですけれども、そういったところの導入も含めて検討をしていくといったような状況でございます。今後、さらに在庫管理についての適正化を図りたいと考えています。

(委員)

例えば、現状では年間、期限切れになった薬とかの廃棄の金額とかは把握はされていますでしょうか。

(鳴門病院)

申し訳ございません。そこまでの金額の把握というのはですね、私のほうでは、病院事務局の方では把握出来ていない状況です。

(委員)

鳴門病院さんのなかでどれ位あるのかはわからないのですけれども、よく、病院で使う頻度の少ない薬が廃棄になって、それがかなりのコストになっているという話は聞きますので、今後、在庫管理のシステムを組み込んでいくような中で、そういった点も考えて頂けたらと思います。

(鳴門病院)

はい、ありがとうございました。

(委員長)

他、よろしいでしょうか。

(委員)

先程、人事評価についての話題がありましたが、私も働き方であるとか人事評価についての項目を見ていたのですが、なかなか数値的なものが出てこなくて、離職率であったりだとか、例えば、時間外勤務の状況であったりだとか、そういうものについては特に数値化して目標化するとかはされていないのでしょうか。

(鳴門病院)

計画の中では、特に数値化しての目標は今のところ立ててございません。ただ、働き方改革の中で超過勤務を抑えていくとか、業務改革をしていくとか、その点については、検討しながら今やっているというところでございます。

(委員)

特に大きな問題は無いというような認識ですか。この辺りに関しては。

(鳴門病院)

そうですね。超過勤務につきまして、36協定をもとに基準を守っていかなければいけないのですけれども、多少、上限を超えているところも若干ありますけれども、多くは無いので、ここは今後検討していけば、何とか範囲内でいけるのではないかと考えているところです。

(委員)

今、医師の働き方改革という事で、お医者様のほうのなかなか超過勤務が是正出来ないみたいなどの問題が大規模病院の中で多かったですので、その辺りについてもちょっと気になるところだなと思います。

(委員長)

他、ございますか。

(委員)

見込評価のところの、21ページで産科及び小児科の診療のところで助産師の稼働者不足のなか、助産師外来の充実をはかったという事で、外来が増えたと思うんですけども、反面、助産師不足の中で、これをするという事はより過剰なのでしょうか。助産師さんの数、どのような形で稼働しているのかというところだけちょっと教えて下さい。

(鳴門病院)

助産師外来に関しては、担当で助産師が1名、以前当院で働いていた方なんですけれども、病気で一旦休まれていたのですが、復帰出来まして、パートで主にそちらの方に関わってもらっているという事で、何とか増やしていった状況です。

(委員長)

よろしいですか。

(鳴門病院)

常勤の助産師さんは分娩等に関わり、助産師外来についてはパートの助産師さん等の活躍によって、病棟からも応援で下りて行っているところはあるのですが、その辺りで何とか成り立っている。

(委員長)

他、ございますか。

(委員)

2つ質問があります。順番にいきます。まず1つ目が人材の確保養成のうち、質の高い医師の確保養成のところで、ここに関しては昨年度、県の自己評価がCからAに。要は、2段階アップしていると。

A評価にした理由として、マッチングで医師3名を採用という事になっているのですが、資料6の26ページを見ると、その結果として、常勤医師が増えていない。

42人のままだという事で。裁量的だというのはわかるが、医師数としては常勤は増えていなくて、むしろ非常勤の医師は4人減っている。というのがある。人員体制として、どの程度充実出来たのか、という事を具体的にお伺い出来れば。

(鳴門病院)

この場合、Aで出しておりますのは、昨年度は初期臨床研修医が実は0だったんですね、マッチングで採用出来たのは。今年度は3名。定員は5名なんですけれども、一応3名確保出来ましたので、そういう意味でAになったという判断をして、判定しました。あと、定数等につきましては、常勤医の数はほとんど変わらずにっております。非常勤の方が減っているのは、臨床研修医が30年の7名から3名に減っておりますので、この分が影響している。

(委員)

わかりました。ありがとうございます。

もう1つは業務運営方法の県立病院との連携、まず、自己評価と調査委員会の評価というのは、自己評価は年度で言えば、年度計画との達成、評価委員会の検証の方は、中期目標との達成度合いという事で、評価の基準が違っている。

県立病院との連携のところを見ると、中期目標の中には、医薬品等の共同交渉や人事交流という言葉が入っていて、中期計画にも年度計画にも、県立病院との間の人事交流の話は計画では無いのですけれども、この点に関して、中期目標にはあるけれども、何かなされた事があるのかどうか。

一応中期目標には入っていて、一応そこを評価しなければならないと思う。そこをお伺い出来ればと。

(鳴門病院)

今のお話につきましては、まずは業務実績報告書の33ページ、資料6ですね。

資料6の令和元年度の業務実績報告書の県立病院との連携のところ、資料7のほうの34ページ、これまでの県立病院との人事交流についてという事でしょうか。

令和元年度は、予定していた人事交流、看護師というところをやればというところで検討したのですが、ひっ迫する看護師の体制等から、令和元年度は残念ながら出来ていない状況です。

(委員長)

よろしいですか。

(鳴門病院)

参考までに申し上げますと、今まで中期目標期間というのは、その期間におきましては、事務職員でありますとか、それから医療技術職員でありますとか、そういった職員については今までも県立病院との人事交流を1年間とか、半年とか、それぞれに期間ございますけれども、実施してきたところでございます。

ただ本年度、昨年度につきましては、先程説明がありましたけれども、看護師が非常に職員が退職あるいは、育休者が多数出る状況の中で交流が残念ながら、最後まで模索はしたのですが、実施出来なかったと。

今年度も同じ状況ではございますけれども、交流という意味で今年度におきましては、中央病院、今の副院長さん、看護師でございまして、鳴門病院の経営の経営戦略会議開催しておりますけれども、アドバイザーとして、出席して頂いております、県立病院の看護の取り組み等も交流の中で、受け取っていきたい。

見習うべきところもあるかと思しますので、そういったものも実際に色々とアドバイスを頂いて、そういった状況でございます。以上でございます。

それから先程、管理者の方から幹部職員の数字の話、全体では理事長は除きまして、院長以下、58名でございます。

(委員長)

それでは、次の議題に移らせて頂きます。

議題(4) 第3期中期目標(素案)について

- ・事務局より、資料8から資料9-3に基づき説明

<質疑応答>

(委員長)

是非色々なご意見を頂けたらと思います。前の議題でも結構です。何か言い忘れた事、聞き忘れた事ございますでしょうか。

(委員)

鳴門市医師会としても、鳴門病院が発展して頂いて、皆から期待され、愛される病院になって欲しいと思っている訳ですけども、大体7月頃に発表される、マスコミに発表される県の病院の決算ですね、決算報告を見ていると、まず県の3病院について行われて、その後鳴門病院がついてまわる。

県の3病院については、mc.comの医療ニュースから引いたのですけれども、マスコミが書いている事は赤字は去年より減って、縮小したと。3億に減ったと。最後のほうにころっと、一般会計の繰入金の前年度比からさらに4%減って、33億円だったと、そう書いていますね。

ところが、鳴門病院のほうについて見ると、赤字額が前年度に比べて6600万円増えていると、増えて過去最大となっていると書かれている。それから、材料費等の経費は膨らんだと、ところが、一般会計からの繰入金等については、何のコメントも無い。

同じ県立病院で違うのですかね。マスコミがそういう風書いているだけなのか、そういう風なコメントを県の方から発しているのか。

もしそうだとしたら、そうかどうかわかりませんが、マスコミにこのような、ちょっと鳴門病院に厳しいようなコメントが多いような気がするのです。

この33億円の一般会計から、繰り込んでいるのに対して、1銭も繰り込んでいない事は、その差はごっつい大きいと思うのですけれども。

もう少し、マスコミが悪いのか、県の発表が悪いのか、僕にはわかりませんが、ちょっと厳しいように思います。毎年こういう事が繰り返されている訳ですから。どこかで、訂正をしないといけない。

鳴門市民も鳴門病院が赤字で他のところが頑張っていると、鳴門病院だけ頑張っていないのだと、こういう風に思われるのも病院の発展には決して良くないと思うし、鳴門市民も喜んでいないと思います。是非とも、そういうところも含めてご検討頂ければと思っております。よろしくお願いします。

(事務局)

鳴門病院、地方独立行政法人につきましても、一般会計の繰入金が出来なくは無い。徐々に補助金、看護学校に関する補助金とか、高度医療機器、先程もありました、リニアックとかPET-CTこういったものについての購入費用、長期貸付制度を新たに設けまして、2分の1は県のほうが負担すると。

そういったところで徐々に支援のほう、確かに全国で唯一、運営費に関する補助金、繰入金については、地方独立行政法人としては県から拠出をしていない。

年々、施設の老朽化とか様々要因がありまして、頑張っ頂いておるのですけれども、さらに赤字額が膨らんでいっているところもありますので、色々と検討していきたいと思っています。

(委員)

県の政策に対してどうこう言っているのではなく、このマスコミの記事はどうにかならないのか。という事をお願いしたいという事。

(事務局)

マスコミの取材対応を致しまして、県立病院は運営費の繰入があると、鳴門病院にはないといったところで。

(委員)

鳴門病院に変わってではないですけど、市民として、是非お願いしたいと思います。

(委員長)

よろしいでしょうか。これで終了致します。

以上